

平成29年度 第1回 小田原市歴史まちづくり協議会 議事概要

日時 平成29年5月15日（月）午後3時00分から午後5時00分まで
場所 小田原市役所本庁舎 6階 601会議室

議題

- (1) 会長及び副会長の選出について
- (2) 「小田原市歴史的風致維持向上計画」の進捗について
- (3) 「小田原市歴史的風致維持向上計画」の変更に向けて
- (4) その他

出席委員

学識経験者

後藤治、小和田哲男

市民団体代表

堀池衡太郎、平井太郎、露木清勝、末弘勝

行政職員

川崎俊明、福田美子

豊田善之、関野憲司、座間亮、佐藤栄

加藤小田原市長（1開会 ～ 2委嘱式 まで出席）

事務局 石塚都市部副部長、山口まちづくり交通課歴史まちづくり担当課長、常盤まちづくり交通課副課長、高橋文化財課副課長、木澤企画政策課係長、竹内産業政策課副課長、諏訪部文化政策課係長、岡生涯学習課副課長、内田図書館係長、府川観光課副課長、佐々木小田原城総合管理事務所係長、田辺まちづくり交通課係長、松尾まちづくり交通課主査、池田まちづくり交通課主任、杉田まちづくり交通課主査

議事の概要

1 開会

2 委嘱式

(1) 委嘱状の交付

加藤市長より、各委員へ委嘱状が交付された。

(委員の任期は、平成29年4月1日から平成31年3月31日までの2年間)

(2) 市長あいさつ

小田原市では、「歴史まちづくり」に係る「小田原市歴史的風致維持向上計画」について、早いもので策定から6年が経過している。

歴史的には中世以前から近代にいたるまで、大変多くの歴史的資産を温存している小田原市の歴史まちづくりについて、長年にわたり様々な方にご尽力いただき一つ一つ取組みを進めているが、やはりどのように整理するか、どの事業をどのような形で見せていくか、今日的な観光面からの要請に合わせどのように表現していくか、課題がある。

当然それらに係る財源の確保、事業の担い手の育成等も含め、様々な課題が多岐にわたるなか、本計画を策定し実行することで、多くの取組みに着手することが出来ている。

これまで、国の財源状況により満額の予算を確保することが難しいことも多々あったが、本日報告にあるように、数多くの事業に着手し、貴重な歴史的建造物の維持修繕だけでなく、歴史的建造物を守っていく職人技術の伝承、最近非常に多くなっているまち歩き観光に対応する案内など、ハードとソフト両面にわたって取組みを進めている。

昨年5月の小田原城天守閣リニューアルオープン以後、実質1年間の入場者数が86万人近くになっており、以前の入場記録を大幅に塗り替えている。小田原市を訪れる観光客が非常に多くなり、特に小田原城だけではないところの歴史的な遺産に関心を持っている方が非常に増えている。

一方で歴史的建造物を保有している民間の地権者の方々は、高齢化や資産を保持することの難しさ、建物自体の老朽化など、すべての課題に時間をかけ取り組むことが難しい状況もある。

そのようななか小田原市では、観光戦略ビジョンを策定し、今年4月からは、第5次小田原市総合計画「おだわらTRYプラン」の後期基本計画に入っており、やはり地域の経済を支えていく切り口は観光であるので、小田原が持っている資源を、いかに光の放つものとしていくか、このような観点について本日議論いただく「歴史的風致の維持向上」、この観点が非常に重要である。その素晴らしさを求めている方の目も非常に肥え

てきていることもあり、これからより一層皆様方からのご意見を伺いながら進めていく必要がある。

市としても、後期計画の重点テーマの1つとして「重要なまちづくり案件の適切な推進」を掲げており、このなかで特に、歴史まちづくりの推進、地域経済の観光による活性化、についてシナリオとして位置付けている。

このようなものに繋げていくために必要な取組みは多々ある。ハードにまつわる整備は当然のことながら、街かど博物館のようななりわいの継承、地域で受け継がれる民俗芸能の継承、訪れる方々を適切にご案内するガイド機能、様々なものが相まって小田原の魅力を発信することとなる。

このような観点から、これまでの事業を適切に進捗管理いただき、今後に向けた具体的な提言やアドバイス、意見などいただきたい。本日、市から各部長も出席しており、全体として官民力を合わせ、この分野の取組みを進めていきたい。

3 議題

(1) 会長及び副会長の選出について

後藤治委員が会長に、小和田哲男委員が副会長に選出された。

(後藤会長より挨拶)

後藤会長 本日は、今年度最初の歴史まちづくり協議会である。

平成23年度の小田原市歴史的風致維持向上計画策定から6年が経過し、最初の計画期間も残すところ4年となっている。

今年3月には、国において、歴史まちづくり法の運用指針が改正され、計画終了後、新たに計画を続けることについて指針等示されたところである。

ただし、継続する場合、10年間の取組みのなかで着実に歴史的風致の維持だけでなく向上が図られたことを、国へ示していく必要がある。小田原市においても、これからの残り4年間で非常に重要になる。

このあたり視野にいれながら、今年度からの事業、又これまでの事業の振り返り等していきたい。

本日は、議題が2つあり、「小田原市歴史的風致維持向上計画」の進捗について、及び「小田原市歴史的風致維持向上計画」の変更に向けて、である。

1つ目の計画の進捗については、国の実施する「進行管理・評価」の内容をもとに、昨年度第二回の本協議会にて協議したものの最終確認である。あわせて、今年度の実施予定についての報告がある。

2つ目の変更に向けて、については、歴史的風致形成建造物への新たな指定案件やまちなみ環境整備に向け検討を進めているかまぼこ通り地区の事業

計画など、今後の計画変更に向けた検討事項について報告がある。

以上の議題について、委員の皆様の積極的な議論を願いたい。

(2) 「小田原市歴史的風致維持向上計画」の進捗について

議題(2)「小田原市歴史的風致維持向上計画」の進捗について、説明する。

平成28年度「小田原市歴史的風致維持向上計画」の実施状況及び平成29年度「小田原市歴史的風致維持向上計画」の実施予定について、説明する。

はじめに、平成28年度「小田原市歴史的風致維持向上計画」の実施状況であるが、【資料1】「平成28年度進行管理・評価シート」を基に説明する。

本年2月に開催した、平成28年度第2回の本協議会にて確認したものであるが、3月の年度末における各事業の実績や完成写真など追加・訂正したものである。

主な部分について説明する。はじめに5ページ、を基に説明する。

歴史的風致形成建造物等整備事業について、歴史的風致形成建造物の候補としていた無住庵及び旧内野醤油店の指定について、前回協議会の了承後、教育委員会への諮問を経て、平成29年3月15日付歴史的風致形成建造物へ指定した。

無住庵については、今後、松永記念館への移築に向けた整備をすすめる。

旧内野醤油店については、引き続き所有者や地域住民組織の協力を得ながら、活用を図っていくものである。

「広報おだわら5月号」A3タブロイド判5ページ下段部分に、「旧内野醤油店」の歴史的風致形成建造物の指定に関し、イベント情報とともに掲載している。

スマートフォンなどのアプリと連動し、建物内部の写真など見ることができる。

次に、30ページ、を基に説明する。

その他関連シートであるが、観光まちあるき事業について、以前協議会にて話しのあった観光まち歩きアプリの配信を、平成29年4月より開始している。

「小田原市公式観光アプリケーション 小田原さんぽ」チラシを参考ください。

観光スポット検索をはじめ、歴史的風致に関連のある主要なまち歩きルートやバーチャル歴史探索機能として、現存しない城郭などの史跡をスマートフォンの画面上に再現することで、当時の様子を体験できるものである。

次に、33ページ、を基に説明する。

歴史まちづくりの効果について、計画策定当初からこれまでの効果を記載するもので、主に、歴史的風致形成建造物への指定により保存・活用をすすめたこと、入込観光客数及び小田原城天守閣や市所有の歴史的風致形成建造物（松永記念館、清閑亭、小田原文学館）3館の入館者数が総体として増加していることなど、歴史まちづくりの一定の効果としている。

入館者数については、平成28年度単位でみると松永記念館及び小田原文学館は

減少しており、総数として増加している部分は、清閑亭による部分が多いが、松永記念館については、連携する旧内野醤油店で978人の入場者数がある。

また、小田原文学館については、近接する岡田家住宅（旧松本剛吉別邸）で7,005人の入場者数がある。カウントの重複など考えられるが、エリア的な誘客という面で、両館とも近接する民間所有の歴史的建造物との連携によりカバーしているといえる。

また、庁内部局間などの連携強化や歴史的風致に関する啓発事業の実施などを定性的な効果としている。

今後は、点から線、あるいは面へ、さらなる街なみ環境の整備や回遊性の向上など進めていく必要があると考えている。

最後に、34ページ、を基に説明する。

前回協議会の意見等まとめたものである。取組み全般から個別事業まで、まとめている。下段には、今後の対応方針として、歴史的風致形成建造物の保存・活用を踏まえた街なみ環境の整備、職人文化と城下町の繋がりを意識した回遊性の向上、各事業の効果的なPR・周知方法など工夫していく必要がある旨記載している。

この【資料1】としてまとめたものが、平成28年度の「小田原市歴史的風致維持向上計画」の主な実施状況を示すものであるので、改めて確認願いたい。

なお、この評価シートは、協議会后、今月末までに国へ提出し、国での確認を経て、7月頃に市ホームページにて公開となる予定である。

次に、平成29年度「小田原市歴史的風致維持向上計画」の実施予定について、説明する。

【資料2】「小田原市歴史的風致維持向上計画（平成23～32年度）事業一覧」を基に説明する。各事業の詳細は、計画書130ページ以降に記載がある。

事業全体として、平成23年度から平成27年度までの前期5年間、史跡整備をはじめ市所有の歴史的建造物の改修など、総額約32億、国費約25億を充当し実施している。

また、平成28年度から平成32年度までの後期5年間、継続的に史跡整備を進めるとともに清閑亭周辺散策路や松永記念館の庭園の整備、小田原文学館の改修工事など、10年間の総額70億、内国費50億を見込んでいる。

平成29年度の主な実施事業は、国の社会資本整備総合交付金を活用するものとして、

- ・総括番号1 清閑亭保存整備活用事業のうち 通番3 小田原城と清閑亭をつなぐ散策路の整備事業
- ・総括番号2 松永記念館整備活用事業のうち 通番10 歴史的風致形成建造物へ指定した無住庵の移築に係る現況調査・解体実施設計・移築基本設計

・総括番号7 小田原文学館整備活用事業のうち 通番30 小田原文学館別館（白秋童謡館）の改修工事
などである。

また、国の社会資本整備総合交付金を活用するもの以外の事業として、

- ・総括番号4 史跡小田原城跡本丸・二の丸整備事業のうち 通番16 平成2年に完成し、老朽化した住吉橋の改修工事
- ・総括番号22 職人育成研修等推進事業のうち 通番58 引き続き歴史的建造物の改修等と併せた実践型職人育成研修等の実施

などを予定している。

次に、【参考資料1】「小田原市歴史的風致維持向上計画（平成23～32年度）と関連する事業の一覧」を基に説明する。

計画への事業としての位置付けは無いが、本計画に関連する事業や各種イベントなど、庁内にて情報共有するものである。

県や民間などが実施している事業も含め、歴史的風致維持向上に寄与する事業の一覧である。

次に、【参考資料2】「小田原市歴史的風致維持向上計画の主な予定（平成29年度）」を基に説明する。

こちらは、平成29年度に実施する事業のうち、社会資本整備総合交付金対象事業のほか、計画全体に係るもの、啓発に係るものなど、主な予定を記載している。

啓発に係るものとして、7月13日に新採用職員を対象とした「歴史まちづくり研修」を実施する予定である。1日行程で「まち歩き」による実地研修などを行い、歴史的風致をはじめとした小田原の貴重な歴史資源を知るとともに、都市セールスなど魅力を高める方法など考えてもらい、今後の市職員として様々な業務を行う際の参考となるものとし、事業所管の新任担当者も含め参加する予定である。

以上、議題（2）「小田原市歴史的風致維持向上計画」の進捗についての説明である。

後藤会長 意見や質問等あるか。

福田委員 【資料1】6ページ、史跡小田原城跡本丸・二の丸整備事業において、「定性的・定量的評価」欄で、「住吉橋につき、修復工事を実施した。」と記載があるが、修理中ではないか。着手したのが平成28年度ではないかと思う。

また、【資料1】12ページ、祭礼等保存継承事業において、現在も実施中とあるが、事業期間が平成27年度で終了となっている。民間事業として続いているという意味で、計画期間が長くなっていることか確認したい。

高橋副課長 住吉橋は、平成28年度に着手し、材の確保及び乾燥等実施した。平成29年度は、実際に解体し、建て替えていく予定である。

後藤会長 そうであれば、「修復工事に着手した。」との表現が正確である。祭礼等保存

継承事業についてはどうか。

常盤副課長 祭礼等保存継承事業について、あくまで今年度の評価シートであるため、事業期間が平成27年度までという表記となっている。昨年度末に、平成32年度まで事業期間を延長する変更を行っているので、今回の評価シートについては、このような形の記載となっている。

後藤会長 そうであれば、事業期間を延長する旨を評価シートへ記載した方が良い。
上記の欄は計画に記載している内容であるため、「実施にあたっての対応方針」欄などに記載すると良い。

常盤副課長 記載方法など検討する。

後藤会長 他に意見や質問等あるか。

平井委員 4点ほどある。1点目は、【資料1】33ページ「歴史まちづくりの効果」における松永記念館などの入館者数の落ち込みについて、である。

入館者数について、3館総体でカバーされているのであれば、そのことや、単体としてなぜ減ったかなどもう少し踏み込んだ評価があっても良いのではないか。

また、以前も申し上げたが、旧内野醤油店や岡田家住宅（旧松本剛吉別邸）が歴史的風致形成建造物に指定され活用されているのであれば、表やグラフへ追加しても良いのではないか。

2点目は、【資料1】31ページ「きづかひのまちの取組み」について、素晴らしい事業であるが、もう少し定量的な部分、誕生祝い品をいくつ配布したかなどの数値を記載したほうが良いのではないか。

3点目は、【資料1】24ページ「職人育成研修等推進事業」について、研修の実施件数だけではなく、参加した職人の人数など記載すると良い。この事業の目的は、実際の建物自体を良くしていくこと、それから人を育てていくこと、の2つである。参加者の人数や参加者へのアンケートによる満足度、成熟度などがあれば記載しても良いのではないか。

4点目は、【資料1】11ページ「銀座・竹の花周辺地区における街なみ環境の向上について」、毎年実施した修景箇所を記載しているが、街なみ全体としてどのように変わったかなど、評価に入れて良いのではないか。非常に難しい部分ではあるが、指標として、例えば、修景カバー率などのようなものを考えていけると良い。単体としての修景件数だけでなく、街全体のウェイトや存在感など示していくことが必要ではないか。

後藤会長 ただ今の意見及び質問について、事務局より回答願います。

山口担当課長 1点目の、入館者数についてであるが、松永記念館及び小田原文学館が減少している点についての記載や新規の民間所有の歴史的建造物、具体的には、岡田家住宅及び旧内野醤油店などのデータを追加してもよいのでは、という意見である

が、検討したい。

松永記念館及び小田原文学館の減少における個別の事情については、各所管より説明する。

岡副課長 松永記念館の入館者数について、平成27年度は25,000人を超えているが、平成28年度は20,000人を割ってしまっている。年平均にすると22,000人くらいである。

平成27年度が増加した理由としては、改修整備によるものとともに、松永記念館の設立者である松永安左エ門について、NHKでドラマ化され放映された影響によるところが大きい。

一方、平成28年度が減少した理由としては、例年開催している特別展、通常数千人の入館者を得ているイベントであるが、事情により、平成28年度は開催できなかったことが影響している。今年度は、特別展などを計画しており、平均以上の入館者数を目指したい。

内田係長 小田原文学館の入館者数について、月単位では、それほどの減少は見られない。ただ、平成29年3月の入館者数についてはかなり減少しており、これは近接する西海子通りの桜の開花の遅れによるものとみられ、この影響が、平成28年度の減少の一因となっているのではないかと考えている。

山口担当課長 3点目の職人育成研修等推進事業についてだが、参加した職人数、職人の技術向上の度合いについての意見であった。

参加者数については、記載事項に追加したい。ただし、技術向上に関する熟度に関し、技術向上の面で研修等がどれだけ役に立ったかという成果については当然計らなければいけないことであるが、現状その方法が定まっていない。

今年度以降、研修を実施していくなかで、熟度や技術向上の度合いなど検証する方法も含め検討のうえ、今後可能であれば記載していきたい。

常盤副課長 2点目のきづかひのまちについて、量的な部分について示してはどうかとの意見であった。本事業は農政課所管であり、確認のうえ数量等について記載するよう対応する。

4点目の銀座・竹の花周辺地区の街なみ環境の向上について、街なみ全体としての評価をしてはどうかとの意見であった。現状、評価シート上では、全体としてどの部分がどのように変わったかが見え難い部分があるので、このあたり示していけるよう今後工夫していきたい。

また、銀座・竹の花周辺地区に限らず、景観の修景整備については、やはり点ごとに整備が進んでいくと連続性が見えないという面もある。

市の支援としては、現在、新築や大規模な改修について修景補助の対象として取り扱っているが、今後、少し敷居の低い補助制度を設けることにより、通りの連続性といったものを醸し出していける新たな補助制度について検討して

いるところである。

座間委員 木づかいのまちについては様々な方々にご協力いただき、市役所に加え小田原駅構内やハルネ小田原のうめまる広場、いこいの森のバンガローなど、小田原の木材が目立つような事業展開が進められている。

おだわらウッドスタートの誕生祝い品や小学校の学習机の天板についても好評であり、今後も増やしていきたいと考えている。

後藤会長 記載内容について変更するものではないが、松永記念館と小田原文学館について、今年度移築など修理の事業計画があるが、工事現場を公開することで新しい集客を増やし、これまでのファンと違うファンやリピーターなど増やして欲しい。

歴史的建造物の工事自体を見る機会が少ないので、是非ガイド協会など関係機関と協力し、特別な機会を活かし、集客数を増やす努力をして欲しい。これは、今年度以降、是非取組んでいただきたい事項である。

小和田副会長 【資料1】25、27ページの関係であるが、小田原城天守閣が過去最高の入場者数とのことであり、これは、入場切符などによりカウントしていると思う。

この間、【資料1】25ページにある百姓曲輪や小峰御鐘ノ台大堀切、いわゆる外郭土塁が国の史跡に追加され、また、【資料1】27ページにある江戸城の石垣石丁場について、昨年度史跡指定されている。そのような場所にどのくらい人の流れがあるか、知りたい。

つまり、簡単にカウント出来るような場所ではないため、はっきり何人が来たかわからないと思うが、やはり増加しているのか、逆にあまり関心がないのかなど、実際に小田原市では、どのように認識しているのか知りたい。

高橋副課長 確かに、人を配置し数えている場所ではないので、正確な人数は把握していないが、市への問い合わせや、特に石丁場については、民間の小田急電鉄などでハイキングコースを作っており、太閤橋から石丁場を回って、一夜城を回る行程がある。人数自体は把握できないが、情報として把握している。

小和田副会長 何か宣伝はしているのか。

高橋副課長 小田急電鉄のホームページに記載されている。

後藤会長 そのような場所にこそ、まち歩きアプリが活用できると良い。説明板の設置が難しい場所などで、携帯のアプリなどから説明が聞けると良い。

やはり街を歩いていて、例えば、小田原文学館付近で、「ここは城下町の時代に武家屋敷だったので屋敷割が大きい」など、非常に単純な情報を、リアルタイムでアプリなどから得られると楽しい。「この辺りは元々どのような職種の人が並んでいた街である」「地名は何である」など、さりげない小さな情報がアプリに追加されてくると、まち歩き自体楽しくなる気がする。

特に、史跡の場所は、なかなか大規模に手を入れることが難しいので、耳か

ら得る情報や画像で得る情報があるだけで、随分まち歩き自体が変わってくる。
是非、「小田原さんぽ」アプリの充実をして欲しい。

座間委員 石垣山一夜城はアプリに入っている。追加も可能な仕様となっているので、
順次増やすことは考えている。

後藤会長 利用者数などアプリでカウント出来るが良い。史跡に訪れた人数など、そこ
でダウンロードした件数でチェック出来るのではないかと。

堀池委員 八幡山古郭への来訪者数についてだが、小田原ガイド協会にて把握している
人数として、1回の企画で100名程度の参加がある。1周を2日間に分け連続
開催すると120名程度の参加がある。どの程度掘り起こせるか不明である
が、開催すればするほど、ある程度の参加者は見込めている。

また、興味深いのは、守る側と攻める側を対比して提示すると、例えば、宇
喜多の陣はこのあたり、黒田官兵衛がどうしたなど、対比しながら話をすると、
一般のかたの興味を引くことが出来る。実際、昨年度は3回実施したが、23
0人程度の参加があった。

それから、石垣山については、小田原ガイド協会主催のコースも変わってき
ている。従来の太閤道のコースや、入生田からのコースは多少飽きられており、
高山右近が陣を張った石橋山の方からのコースの人気がある。必ず80、90
人程度の参加がある。

同じ資源でも、少しひねって魅せることが非常に必要であり、重要なことだ
である。

後藤会長 市公共施設などでリピーターを生むについても同様のことがいえる。これま
でと違う視点を加え解説する、非常に重要な指摘である。

平井委員 このまち歩きアプリの利用件数は、今後確認していく必要があると思う。

府川副課長 利用件数について、アンドロイド系のソフトは、インストール画面に表示され
る。開始から約1カ月で、500件以上ダウンロードされている。

しかし、i-phone や i-pad などアップル系のソフトは、数字が出ていないため、
今後把握方法について検討したい。

平井委員 使用した場所など特定出来るものであるか。

府川副課長 そこまでは出来ない。ダウンロードした件数のみである。

座間委員 通常、Wi-Fi などネット環境のあるところでダウンロードし、該当箇所で使用
するものである。事前に駅などでダウンロードし、各自該当の場所に行ってソ
フトを使用するもので、使用件数までは分からない。

平井委員 ソーシャルネットワークのアプリなどには、チェックポイント機能があるの
で、技術的に難しくない。「ここに今、私がいて、こんな楽しいことをやってい
る。」など、ネットにアップすることは日常的に行われている。

そのようなものが把握出来れば良い。Wi-Fi などネット環境の無い石丁場など

では使用出来ないということか。

座間委員 残念ながらそのような機能はなく、把握できる件数は、ソフトのダウンロード件数である。

後藤会長 様々な方法を工夫して欲しい。

それでは、今回の意見を踏まえ、修正が必要な個所に関しては、会長と事務局に一任してもらい、基本的に、事務局原案のとおり【資料1】の平成28年度進行管理・評価シートを、最終版とし今月中に国へ提出することによろしいか。

委員 異議なし。

後藤会長 それでは修正については、事務局とともに取りまとめるものとする。

(3) 「小田原市歴史的風致維持向上計画」の変更に向けて

議題(3)「小田原市歴史的風致維持向上計画」の変更に向けて、説明する。

今後、歴史的風致維持向上計画を効果的に進めていくうえで、「歴史的風致形成建造物の新規指定」及び「実施事業の追加」の検討している。この2点について、計画変更に向けた意見を聞きたい。

はじめに、歴史的風致形成建造物への新たな指定として、南町にある「江嶋屋陶器店」の指定への検討について、である。

【資料3】「指定番号8(仮)江嶋屋陶器店」を基に説明する。

前回協議会にて報告したものであるが、職人育成研修等推進事業を実施しているNPO法人おだわら名工舎より推薦を受け、所有者からも歴史的風致形成建造物への指定について意向のあった建物について、新たに歴史的風致形成建造物へ指定するものである。

この建物については、建物の意匠が優れていることに加え、「板橋周辺地区にみる歴史的風致」の要素である小田原の茶道文化を支えていたこと、小田原城と清閑亭、小田原文学館や岡田家住宅(旧松本剛吉別邸)のある西海子小路を繋ぐ結節点の場所に位置するものである。

既に、指定済の岡田家住宅や皆春荘と同様、計画策定当初には候補でなかったものであるが、新たに価値が判明したものとして、「板橋地区周辺にみる歴史的風致」として位置付け、今後指定に向けた手続きを進めるものである。

なお、一昨年に市へ寄贈された栄町4丁目の豊島邸(一月庵)や民間所有である本町1丁目の瀬戸たばこ店についても、今後調査をすすめ、指定の妥当性等判断したうえで、次回以降の協議会にて、歴史的風致形成建造物への指定についての協議等願いたい。

また、平成28年3月に指定した岡田家住宅や皆春荘、平成29年3月に指定した旧内野醤油店や無住庵、これから指定する予定となる江島屋陶器店や豊島邸、瀬戸たばこ店について、委員の皆様への現地視察等も企画したい。

次に、まちづくりへの機運が高まっているかまぼこ通り地区に係る事業の追加、である。

【資料4】「○かまぼこ通り周辺地区のまちづくり」を基に説明する。

あわせて、計画書125ページ下段を基に説明する。

本計画書において、かまぼこ通り地区周辺など歴史的まちなみ環境が残る地区において、住民主体による歴史的環境の維持向上を図っていく旨の記載をしており、計画策定当初の事業として、【資料1】14ページに記載のとおり「地区まちづくりのための調査及び住民とのワークショップ」として取り組んでいる。

特に、小田原の維持向上すべき歴史的風致の1つである「宿場町・小田原の水産加工業にみる歴史的風致」の多く残る地区であるかまぼこ通り周辺地区では、「かまぼこ通り活性化協議会」が組織され、昨年10月に「小田原かまぼこ通り～まちづくり構想～」が策定され、景観整備も含めた今後のまちづくりへの提案がなされたところである。

これを受け、小田原市では、景観街づくりアドバイザーを派遣するなど、協議会の活動を支援してきたが、今年度以降、具体的な事業化へ向けさらなる検討を進めていく予定である。

また、昨年度小田原市において、まちなかの回遊性の向上、賑わいの創出を目的とした委託調査事業を実施しており、この成果として、小田原駅からお城・三の丸地区を繋ぐお堀端通りや、お城から先にあるかまぼこ通りなどへの回遊ルートの有効性が検証され、各エリアにおける課題や空間イメージに基づく取組例など挙げられている。

詳しくは、【参考資料3】「にぎわいと回遊・魅力ある街なみ整備調査研究」を参考ください。

これらの調査結果等も踏まえつつ、今年度かまぼこ通り地区において、具体的に「まちづくり構想の精査」と「まちづくり構想の実現化の検討」を行い、住民主体となる事業について、歴史的風致維持向上計画の事業として、新たに位置付けをして、実施していくことを考えている。

以上、議題（3）「小田原市歴史的風致維持向上計画」の変更に向けて、の説明である。

後藤会長 街の回遊性を高めるためには、NPO法人まちづくり応援団などの組織による活動が非常に重要である。

小田原文学館からかまぼこ通りまで歩く場合、ハードについては、【資料4】の地図にあるとおり揃っているが、裏の部分、ソフトについては、歴史などの

掘り起こしが重要であり、江島屋陶器店が小田原の茶人と繋がっていたことなど1つの表れといえる。

かまぼこ通りにある多様な店舗と小田原城下の結びつきなど、聞きながら歩くと楽しいし、滞在時間が延びるので、より多く用意しておくことが重要である。

ソフトの掘り起こしについては、それ程費用のかかる事業ではないので、是非市と協力して検討して欲しい。

平井委員 ソフト事業について、「なりわい」と「邸園」を2つの柱とし、新しいツアーやイベントの企画など、これまで以上にやっていきたいと考えている。

他方、清閑亭への来訪者が多くなっており、新しいことを考えている暇がない状況にもなっており、上手にやっていかないといけない。

後藤会長 最近、近代史の見直しが日本中様々な場所、戦争の問題がまずあるが、それ以外にもレビューが多く出ており、昭和天皇の幼少時代など見直されている。

実は、小田原には御用邸があった。その点小田原は、見直される機会があると感じており、今後近代史レビューが盛り上がるほど、昭和天皇の足跡など見直されていくであろう。

このため、小田原に限らず様々な場所で言っていることだが、昭和天皇の足跡を消してはいけない。【資料4】の地図にも明治天皇の行在所がいくつかあるが、明治天皇の聖蹟のようになるとあまり良くないが、近代史を冷静に見つめ直す意味で、昭和天皇の足跡について、きちんと見ていくことは非常に大事なことであり、小田原の近代にとっても意味がある。

これはあくまで一例であるが、そのように様々な側面から歴史資産を見ることが重要である。

堀池委員 明治天皇の行在所の話があったが、かまぼこ通りより、どこに優先順位を置くかが重要である。史跡を優先するのか、新しい取組みを優先するのか。

例えば、明治天皇の行在所であれば、プレートを設置すれば済む。街を歩く人がその場所にて、清水本陣や片岡本陣などを認識することが出来る。

ところが、小田原の場合、敷地内に看板はあるが、プレートが1つもない。

小田原ガイド協会では、年間約80日、なりわい交流館において、2名ガイドを置き、土日祝日にガイドをしている。

そのような場合に、やはり場所について、「言ってもらわないと分からない。」という声がよくある。

片岡本陣など、「左側を少し入ったところである。」と案内しても気付かないことが多い。かまぼこ通りの看板を立てるのも結構であるが、小田原の観光としてどこに優先順位を置くのか、文化財課や経済部所管もいるが、そのあたりのところ見えてこない。

自分は、会長となり半年以上ガイド自体していないが、以前は街かどでガイドをしていた。そのなかで、例えば地域内でも、かまぼこ通りを決して歓迎している老舗だけではないのが事実である。歓迎している老舗もあれば、歓迎していない老舗もある。それらを松永記念館などとリンクして実施していくと、いうことであれば、そのような老舗に対し、少し細かい気づかいが必要である。

行政としても必要なことではないか、実際にガイドをしていて感じる。

後藤会長 先ほどのまち歩きアプリなど、ソフトとハード、良いバランスが重要である。そのような課題の認識に関する指摘である。

平井委員 かまぼこ通りであるが、JRの方で調整をし、都市環境研究所も入り、色々研究していくとのことである。今後位置付けていくこと、実施していく際の役割分担やスケジュール、事業のボリュームなど、現在整理されている部分教えて欲しい。

また、【資料4】の図面の大木邸について該当することであるが、民間が新しい町屋的なものをリノベーションしてお店やカフェにしたり、あるいは石川漆器隣にある古い町屋を改装して、新しく民泊にしたり、そういった取組みを改めて啓蒙していくと良いのではないか。

かまぼこ通りでいえば、大木邸のように大きいテーマがあって、そのなかで取組みを位置付けていくという姿勢を示したり、石川漆器隣の民泊などは、本計画に顕在化することは難しいかもしれないが、このような事例もあり、啓蒙して進めたり、新しい観光などの考え方もあるので、民間の力を使っていく視点を持つと良い。商工会議所などでも、リノベーションに対する創業支援をしており、新しい事業者が続々と出てきている状況もある。

常盤副課長 かまぼこ通り地区の最近の動きについて説明する。

昨年10月に、かまぼこ通り活性化協議会において、かまぼこ通り地区の将来構想を描いた「小田原かまぼこ通り～まちづくり構想～」を策定した。

市としても、【参考資料3】のとおり、小田原駅周辺からお城、それを繋ぐお堀端通り、お城の正面には三の丸地区、今後市民ホール等の建設など予定しているエリアがある。それらを繋ぐとともに、その先に回遊エリアを広げていく必要があり、かまぼこ通りや西海子通り、まずその軸を強化する考えがある。

このような市の動きと地元のかまぼこ通りでの活性化の動きが、時期を同じくして同じ方向を向いており、平成29年度は、専門のコンサルタントを入れ、様々な夢が詰め込まれ、短期及び長期に対応するものが混在しているまちづくり構想を専門家により整理したうえで、きちんとした実施計画を作成していくこととしている。

この動きを基本とし、JRの話が出たが、これは、地区内に魚河岸山車を収納している山車小屋があり、見た目上あまり歴史性を感じる作りにはなっていない

ないということがあり、地元協議会でも、従前から手を入れたいとの話があった。そのタイミングで、JRに助成制度があるという情報を入手したので、これを活用する相談をし、平成29年度に山車小屋の修景等々にJRからの支援が受けられるものとなった。

これは、個別に支援ツールを活用出来たということであり、基本としては、かまぼこ通りのまちづくり構想があり、その中身を整理したうえで、実施計画を作成していくことが今後取り組むことである。

後藤会長 他に意見や質問等あるか。

川崎委員 【参考資料3】の調査対象が、小田原駅、お城の周りから、中心市街地活性化基本計画区域となっているが、かまぼこ通り地区の場合、早川漁港などとの回遊性という部分もあった方がよい。調査対象の区域には入っていないが、この外側区域との回遊性など、どのように考えているか。

常盤副課長 昨年度委託した、にぎわいと回遊・魅力ある街なみ整備調査研究であるが、市として、喫緊に対応すべき部分はどこかという観点から整理しており、当然、西海子通りの先には早川があり、整備中の小田原漁港がある。また、その背後には石垣山の一夜城もあり、内部には板橋がある。そういったところとの繋がりも今後の課題としてある。

回遊ルートは、複数あって、回遊する人が自由に選べる選択肢があって初めて回遊性が高まると考えており、次の段階で、全体の回遊性など考えていく。

石塚副部長 かまぼこ通りを含め、小田原市全体として、小田原城天守閣に86万人、その他大勢の観光客が訪れており、それら観光客にどのように魅力ある場所に足を運んでもらうか大きな視点で考えていきたい。

小田原駅周辺だけでなく、早川漁港についても、当然小田原の魅力の大きな要素の1つであるので、小田原駅周辺から歩いて板橋、西海子を通り早川へ歩いてもらうことが良い。

その1つとして、地元で協力いただいているかまぼこ通りを焦点に、その地区だけではなく、周辺も含め大きく捉えたなかで、点から線、線から面という形で、来訪者を迎える環境を作っていく。そのように事業を進めていきたい。

後藤会長 板橋のあたりまでは重点区域に入っており、早川漁港は少し外れている。

大枠で言うと重点区域に大まかな部分が含まれているので、早川漁港へ繋がる部分については、重点区域に関係しており、次の10年に向け関係する部分でもあるので、積極的な取組みを進めて欲しい。

平井委員 かまぼこ通り地区について、将来構想を作り、それに対し進めていく。これは、例えばまちづくり条例など、市と民間団体の間で協定を結んでオーソライズしているなど、何か制度的な仕組みがあって進めているものであるか。

コンサルタントが入り、実施計画を作成し、実施していくとなれば、その実

施する場合の手当てなど、どこがどう持ってくるのか。歴まち事業に新たに項目として追加し、位置付けていくイメージであるのか。

常盤副課長 事業項目を新たに追加していくことを考えている。

現在は、かまぼこ通りや板橋でのワークショップ事業であるが、一步進め、これからの地区のまちづくりに対応できるよう事業立てしていきたい。

平井委員 要するに、仕組みになって欲しい部分があり、地元で盛り上がっているから良いということではなく、他地域でも、歴まちや都市計画の制度上分からないが、手を挙げる事が出来るような道筋の位置付けがあると、より広がりが出せるのではないか。

常盤副課長 今年度のかまぼこ通りの取組については、まちづくり構想を整理した上で実施計画を作成していくことである。但し、それだけではなく、計画自体を将来にわたって地元で回していける組織作りもあわせて行っていく、この部分も業務内容に入れてある。

そのなかで、一定のモデル性が導き出せれば、他地域でも活用することが出来る。具体的な他地域での支援スキームは未定だが、このかまぼこ通りでの実験、取組を通して、今後の展開など考えていきたい。

後藤会長 国が歴まち計画を延長する際の条件の一つとして、10年計画を実施した結果、例えば、景観条例の景観区域しかなかったところに景観地区が出来たとか、文化財の登録件数が増えたなど、いわゆる歴史的風致の維持だけでなく、向上の観点、規制的な面も含め市民への理解が広まり、さらにそれが進展しているという部分であり、そのことで延長していく考えがある。

かまぼこ通りで協定的なものが出来、次の5年間で景観地区などに進むことなどが、次の5年10年と続けていく場合大事な要素となってくる。

平井委員指摘の部分は、国が歴まち計画を継続する際の1つの重要な要件、判断指標としている点であるので、よく理解して欲しい部分ではある。

佐藤委員 以前よりかまぼこ通りについては、まちづくりを進めていくなかで、外部の方々がかかり熱心に地区の良いところを探ったり、提案をいただいたりしているところである。

しかしながら、堀池委員のご意見のように、必ずしも地元で歓迎していないところもある。

市では、小田原駅からの回遊の軸について、どこが大事なのか昨年検証したが、そのなかでかまぼこ通りが話題となっている。これまで市の施策としては、中途半端な状況であったことは事実である。

大きなポイントとして、ルールを定めていくとなると、地元の利害関係者、地主や土地の権利者の理解が極めて重要である。様々な大学の方々からまちづくりの提案をいただいているが、なかなか浸透していかない。イベントも外部

の方が来て色々行っているが、地元とフィットしない。

そのような部分を含め、かまぼこ通りについて、しっかり地に足の着いた形で、今年度、市でも専門のコンサルタントも入れ実施計画を作っていく。当然ルール作りまでもっていくものであるが、当面は、実証実験をし、人がどれだけ来るかなど検証するものである。

かまぼこ通りは、これまで何かあるようではなかった地区である。これから踏み込んで行く状況にあるので、今後とも助言やアドバイス等いただきたい。

後藤会長 住民の理解については、具体的な事業が進み、目に見える形があると随分違うものとなる。事業が少し先にあつて、様々な同意が進むこと、そのようなことが可能であることが、歴史まちづくり法最大の利点である。

規制が無いと出来ないルールが多いなかで、歴史まちづくりは、事業を動かしながら進捗させていけば良い。

(4) その他

次回の協議会は、翌年1月下旬を予定している。

主な内容としては、「平成29年度 進行管理・評価シート」による平成29年度の実施状況等の確認、及び歴史的風致維持向上計画の変更について、など予定している。

特に、議題(3)にて報告した、「江嶋屋陶器店の歴史的風致形成建造物の指定への追加」と「かまぼこ通り地区に係る事業の追加」の2案件について、今年9月までを目途に庁内調整を行い、精査していく予定である。個別に意見などありましたら、事務局まで連絡ください。

小和田副会長 全国の日本城郭協会の代表理事をしているが、この間、お城人気が非常に高まっており、小田原城は日本百名城の一つであるが、続・百名城というのを選定して欲しいという要望が強く、神奈川県では小机などが入った。

今後、城と城を繋ぐようなことも考えていく必要があると感じており、小田原のまちづくりと何処かでリンクできれば良いと思うのでお願いしたい。

後藤会長 小田原市は、もっと小和田先生のお知恵を活かし、街歩きを更に楽しくする企画をしたら良い。小田原市は宝の山のような気もするので、このような観点から、歴史的風致維持向上計画の重点区域も含め、色々検討して欲しい。

4 閉会

以上